

完了後の評価個表

整理番号	5-1
------	-----

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	熊本県
ふりがな 地区名	せいわやべ 清和矢部	事業実施主体	熊本県
関係市町村	山都町(旧清和村・矢部町)	管理主体	山都町(旧清和村・矢部町)
事業実施期間	H16~H20(5年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 当地区は、熊本県の東部、九州のほぼ中央に位置し、北部は阿蘇南外輪山、南部は九州脊梁の山々が連なり、これらを水源とする緑川、五ヶ瀬川が東西に流れており、西側は御船町、東側は宮崎県五ヶ瀬町に接している熊本県内でも有数の林業地帯である。</p> <p>② 森林の状況 当地区の森林面積は1,215haで、そのうち人工林面積は933ha(77%)である。人工林の植栽樹種のほとんどがスギ、ヒノキとなっており、齢級構成は10齢級以下の面積が668ha(72%)を占めている。 また、保安林として、水源かん養保安林596ha、土砂流出防備保安林83haが指定され、約68%が水土保持林に区分されており、森林の持つ水源涵養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区は、地域の中でも重要な森林地帯であり、間伐等の森林整備を必要とする人工林が多く存在している。このため、木材生産や森林整備の低コスト化を図り、豊富な森林資源の循環利用による適切な森林整備を促進する骨格的な林道として整備を実施した。また、災害時の迂回路としての役割も期待されている。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道整備 清和矢部線 車道幅員 4.0m 開設延長 8,171m 利用区域面積 1,215ha 総事業費 1,277,616千円 (当初総事業費 1,793,000千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成26年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 コスト削減を図ったことにより、事業採択時と比較して総事業費は減少した。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">総便益 (B)</td> <td style="width: 30%;">2,062,945千円</td> <td style="width: 30%;">(事業採択時 3,643,681千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>1,683,810千円</td> <td>(事業採択時 1,678,169千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>1.23</td> <td>(事業採択時 2.17)</td> </tr> </table>	総便益 (B)	2,062,945千円	(事業採択時 3,643,681千円)	総費用 (C)	1,683,810千円	(事業採択時 1,678,169千円)	分析結果 (B/C)	1.23	(事業採択時 2.17)
総便益 (B)	2,062,945千円	(事業採択時 3,643,681千円)								
総費用 (C)	1,683,810千円	(事業採択時 1,678,169千円)								
分析結果 (B/C)	1.23	(事業採択時 2.17)								
② 事業効果の発現状況	<p>森林基幹道の整備により、木材生産や森林整備の低コスト化が図られたことで、手入れを必要としていた173haの人工林で間伐等が実施され、森林の有する水源かん養等の公益的機能の向上が図られている。 また、林道沿線の地域住民の生活道等としても利用されている。</p>									
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>事業実施後は、地元の山都町が施設管理基準に基づき適切に管理しており、草刈りや側溝清掃等が適宜行われ、良好な維持管理状況にある。</p>									
④ 事業実施による環境の変化	<p>林道整備により、森林施業地までの到達時間が短縮され、林業従事者の労働環境の改善、木材生産や森林整備のコストが低減され、森林所有者の森林経営に対する意欲が向上してきている。 また、林道整備による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見られない。</p>									
⑤ 社会経済情勢の変化	<p>林道整備により、森林施業地までの到達時間短縮による労働強度の軽減、高性能林業機械の導入や運搬車両の大型化が可能となったため、作業コストの軽減が図られ、林業生産性が向上しつつある。</p>									

⑥ 今後の課題等	<p>森林施業に対する所有者の意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の森林整備は十分とはいえない状況にある。今後は、当該林道と森林作業道をつないだ路網整備や施業の集約化を促進し、間伐等の森林整備を推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の意見： 森林整備の実施により、水源涵養や山地保全等の公益的機能の高度発揮に寄与している。（熊本県） 林道整備により、木材生産や森林整備が促進され、地域の森林資源の有効活用に大きく寄与した。 林道が生活道としても利用されていることから、草刈りや側溝清掃が適切に実施されるよう地元住民と連携した取組を行っていききたい。（山都町）
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 林道の整備による適切な森林整備の実施により、森林の有する水源涵養等の公益的機能の発揮や、地域住民の生活道としての役割に寄与していることから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 事業実施において、現地の地形に応じた計画線形の選定を行うとともに、工事実施に当たってもコスト縮減に努めたことで総事業費の削減が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 林道の整備により森林へのアクセスが容易となり、木材生産や森林整備のコスト縮減による森林資源の循環利用が促進され、今後も開設効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

事業名: 森林居住環境整備事業

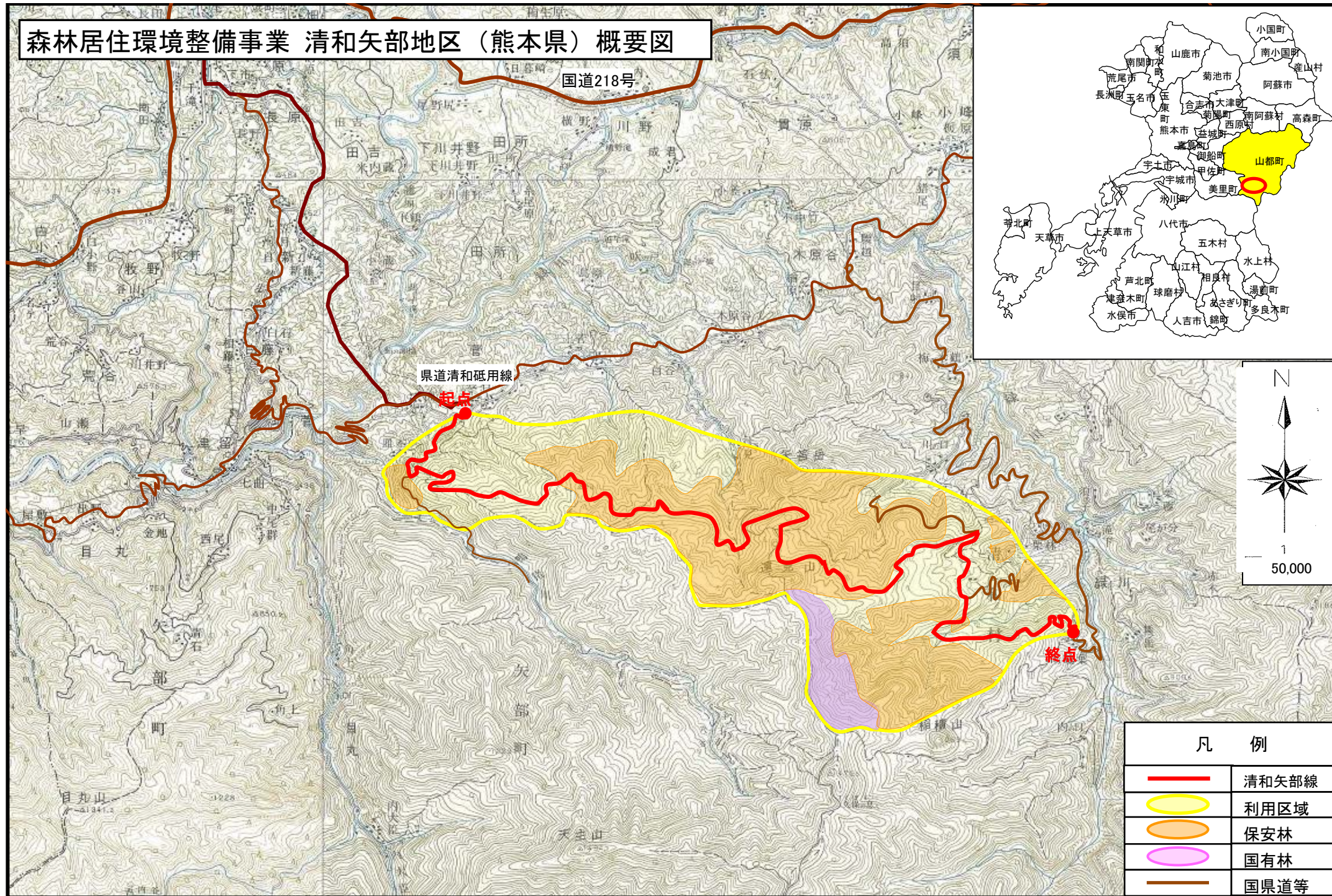
都道府県名: 熊本県



地域(地区)名: ^{せいわ やべ} 清和矢部

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	135,113	
	木材利用増進便益	182,042	
	木材生産確保・増進便益	138,010	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	1,547	
	森林整備促進便益	1,606,233	
総 便 益 (B)		2,062,945	
総 費 用 (C)		1,683,810	
費用便益比	$B \div C = \frac{2,062,945}{1,683,810} = 1.23$		

森林居住環境整備事業 清和矢部地区（熊本県）概要図



凡 例	
	清和矢部線
	利用区域
	保安林
	国有林
	国県道等